



2023年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月13日
東

上場会社名 株式会社キャンディル 上場取引所
 コード番号 1446 URL <https://www.candea1.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 晃生
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役(管理管掌) (氏名) 藤原 泉 (TEL) 03-6862-1701 (代)
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第1四半期の連結業績(2022年10月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第1四半期	3,023	5.7	127	338.9	122	—	59	—
2022年9月期第1四半期	2,860	△1.1	29	6.1	△0	—	△37	—

(注) 包括利益 2023年9月期第1四半期 59百万円(—%) 2022年9月期第1四半期 △37百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2023年9月期第1四半期	円 銭 6.53	円 銭 6.52
2022年9月期第1四半期	△3.68	—

(注) 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2023年9月期第1四半期	百万円 6,480	百万円 2,549	% 39.3
2022年9月期	6,480	2,516	38.8

(参考) 自己資本 2023年9月期第1四半期 2,549百万円 2022年9月期 2,516百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年9月期	円 銭 —	円 銭 3.00	円 銭 —	円 銭 3.00	円 銭 6.00
2023年9月期	—	—	—	—	—
2023年9月期(予想)	—	3.00	—	3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年9月期の連結業績予想(2022年10月1日~2023年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,108	7.5	408	21.2	373	22.8	135	28.6	14.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期1Q	10,734,200株	2022年9月期	10,734,200株
② 期末自己株式数	2023年9月期1Q	1,570,000株	2022年9月期	1,570,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年9月期1Q	9,164,200株	2022年9月期1Q	10,094,634株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安などを背景にした物価上昇・資源高などの下押しリスクもありましたが、新型コロナウイルスワクチン接種の進展や各種政策等により個人消費は緩やかに持ち直しており、またインバウンド需要も本格的に回復の兆しを見せ始めるなど、経済持ち直しの動きが強まりました。

当社グループ事業に関係の深い住宅業界におきましては、国土交通省発表による2022年1月～2022年12月累計の新設住宅着工戸数は、戸建てが前年同期比93.6%と減少し、分譲マンションが前年同期比106.8%と増加し、住宅市場全体としては前年同期比100.4%と前年同期並みに推移いたしました。

このような状況のもとで、当社グループは「世界に誇れる独創的建物サービスで社会と感動を分かち合う」という理念にもとづき、「全ての建物に“キャンディル”」というビジョンを実現すべく、持続的な事業の成長とさらなる企業価値の向上を目指して、激しく移り変わるお客様のニーズや時代の変化に寄り添いながら、2021年に新しく閣議決定されました「住生活基本計画」に沿ったサービスの拡充に取り組み、住宅関連・商業施設関連サービスの売上拡大に努めてまいりました。

原油やエネルギー価格の高騰、人材獲得競争の激化などの厳しい経営環境の中、社会活動の緩やかな回復と営業施策の奏功により、当社グループのサービス提供機会は増加し、全てのサービスにおいて売上高は復調傾向を示しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は3,023,493千円（前年同期比105.7%）、営業利益は127,892千円（前年同期比438.9%）、経常利益は122,640千円（前年同期は682千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は59,842千円（前年同期は37,183千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。なお、当社グループでは組織再編及びM&Aの実施に伴い発生したのれん償却費を販売費及び一般管理費に48,055千円計上しており、これを加えたのれん償却前経常利益は170,696千円（前年同期比360.3%）、のれん償却前親会社株主に帰属する四半期純利益は107,898千円（前年同期比992.4%）となります。

当社グループは、建築サービス関連事業の単一セグメントとしておりますが、サービス分野別の状況は以下のとおりであります。

① リペアサービス

当第1四半期連結累計期間におけるリペアサービスの連結売上高は1,105,098千円（前年同期比102.7%）となりました。

株式会社バーンリペアは主に戸建てを中心にリペアを提供しておりますが、住宅市場の需要を積極的に取り入れたことで、同社のリペアサービスの売上高は899,444千円（前年同期比105.7%）と回復基調で推移いたしました。株式会社キャンディルテクトは主に集合住宅を中心にリペアを提供しておりますが、技術者不足の影響で、同社のリペアサービスの売上高は205,653千円（前年同期比91.2%）となりました。

② 住環境向け建築サービス

当第1四半期連結累計期間における住環境向け建築サービスの連結売上高は733,172千円（前年同期比108.6%）となりました。

株式会社バーンリペアは主に戸建てを中心に定期点検、検査、小型修繕、各種施工、リコール対応を提供しておりますが、定期点検数の増加や単価上昇、リコール対応の新規大型案件獲得により、同社の住環境向け建築サービスの売上高は589,937千円（前年同期比113.5%）となりました。株式会社キャンディルテクトは主に集合住宅を中心に検査を提供しておりますが、技術者不足の影響で、同社の住環境向け建築サービスの売上高は143,234千円（前年同期比92.2%）となりました。

③ 商環境向け建築サービス

当第1四半期連結累計期間における商環境向け建築サービスの連結売上高は939,771千円（前年同期比102.8%）となりました。

商環境向け建築サービスは主に商業施設等の内装施工、家具組立て、揚重を提供しておりますが、商環境の市場回復に伴うホテルや商業施設などの内装施工需要などを取り込んだ結果、増収となりました。

④ 商材販売

当第1四半期連結累計期間における商材販売の連結売上高は161,320千円（前年同期比105.2%）となりました。

商材販売は主にリペア材料やメンテナンス材料を販売しております。

⑤ 抗ウイルス抗菌サービス

当第1四半期連結累計期間における抗ウイルス抗菌サービスの連結売上高は84,131千円（前年同期比203.5%）となりました。

抗ウイルス抗菌サービスは室内の壁面・天井、水まわり、床などの各種コーティングサービスを提供しておりますが、家電量販店などとの協業による水まわりコーティング案件が好調だったことにより、増収となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(総資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は6,480,342千円となり、前連結会計年度末に比べ56千円の減少となりました。

流動資産は3,835,983千円となり、前連結会計年度末に比べ86,402千円の増加となりました。これは、主に現金及び預金が31,521千円減少したこと、受取手形及び売掛金が20,491千円増加したこと、その他流動資産が91,157千円増加したことなどによります。

固定資産は2,644,359千円となり、前連結会計年度末に比べ86,458千円の減少となりました。これは、主にのれんが48,055千円減少したこと、ソフトウェアを含めたその他無形固定資産が13,753千円減少したこと、繰延税金資産が21,874千円減少したことなどによります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は3,931,142千円となり、前連結会計年度末に比べ32,405千円の減少となりました。

流動負債は2,887,416千円となり、前連結会計年度末に比べ91,847千円の増加となりました。これは、主に未払法人税等が81,249千円減少したこと、未払費用が34,286千円増加したこと、その他流動負債が148,428千円増加したことなどによります。

固定負債は1,043,725千円となり、前連結会計年度末に比べ124,253千円の減少となりました。これは、主に長期借入金が124,166千円減少したことなどによります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は2,549,200千円となり、前連結会計年度末に比べ32,349千円の増加となりました。これは、主に利益剰余金が32,349千円増加したことなどによります。この結果、自己資本比率は39.3%（前連結会計年度末比0.5ポイント上昇）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点の業績予想につきましては、2022年11月11日の「2022年9月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,892,412	1,860,890
受取手形及び売掛金	1,555,662	1,576,153
商品及び製品	128,955	135,238
原材料及び貯蔵品	31,728	29,163
その他	147,266	238,424
貸倒引当金	△6,444	△3,887
流動資産合計	3,749,580	3,835,983
固定資産		
有形固定資産	51,358	49,444
無形固定資産		
のれん	2,306,684	2,258,628
その他	145,282	131,529
無形固定資産合計	2,451,967	2,390,157
投資その他の資産		
繰延税金資産	94,769	72,895
その他	136,194	135,171
貸倒引当金	△3,471	△3,309
投資その他の資産合計	227,492	204,757
固定資産合計	2,730,817	2,644,359
資産合計	6,480,398	6,480,342

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	331,179	374,166
短期借入金	658,335	633,336
1年内返済予定の長期借入金	699,996	699,996
未払法人税等	125,769	44,519
賞与引当金	142,615	115,010
未払費用	502,788	537,074
その他	334,884	483,313
流動負債合計	2,795,568	2,887,416
固定負債		
長期借入金	1,159,180	1,035,014
その他	8,799	8,711
固定負債合計	1,167,979	1,043,725
負債合計	3,963,548	3,931,142
純資産の部		
株主資本		
資本金	561,787	561,787
資本剰余金	2,281,887	2,281,887
利益剰余金	467,596	499,946
自己株式	△794,420	△794,420
株主資本合計	2,516,850	2,549,200
純資産合計	2,516,850	2,549,200
負債純資産合計	6,480,398	6,480,342

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年10月1日 至2021年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年10月1日 至2022年12月31日)
売上高	2,860,533	3,023,493
売上原価	1,836,025	1,924,918
売上総利益	1,024,508	1,098,575
販売費及び一般管理費	995,370	970,682
営業利益	29,138	127,892
営業外収益		
受取利息	11	14
受取手数料	-	650
受取保険金	1,219	321
助成金収入	1,282	-
その他	562	186
営業外収益合計	3,076	1,172
営業外費用		
支払利息	4,218	3,690
損害賠償金	27,330	-
固定資産除却損	-	2,733
その他	1,348	-
営業外費用合計	32,897	6,423
経常利益又は経常損失(△)	△682	122,640
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△682	122,640
法人税、住民税及び事業税	13,693	40,923
法人税等調整額	22,807	21,874
法人税等合計	36,500	62,798
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△37,183	59,842
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△37,183	59,842

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△37,183	59,842
四半期包括利益	△37,183	59,842
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△37,183	59,842
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、建築サービス関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益のうち、サービス別に分解した情報は以下のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間（自 2021年10月1日 至 2021年12月31日）

(単位：千円)

	建築サービス関連事業
サービス別	
リペアサービス	1,076,443
住環境向け建築サービス	675,292
商環境向け建築サービス	914,070
商材販売	153,385
抗ウイルス抗菌サービス	41,341
顧客との契約から生じる収益	2,860,533
その他の収益	—
外部顧客への売上高	2,860,533

当第1四半期連結累計期間（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）

(単位：千円)

	建築サービス関連事業
サービス別	
リペアサービス	1,105,098
住環境向け建築サービス	733,172
商環境向け建築サービス	939,771
商材販売	161,320
抗ウイルス抗菌サービス	84,131
顧客との契約から生じる収益	3,023,493
その他の収益	—
外部顧客への売上高	3,023,493